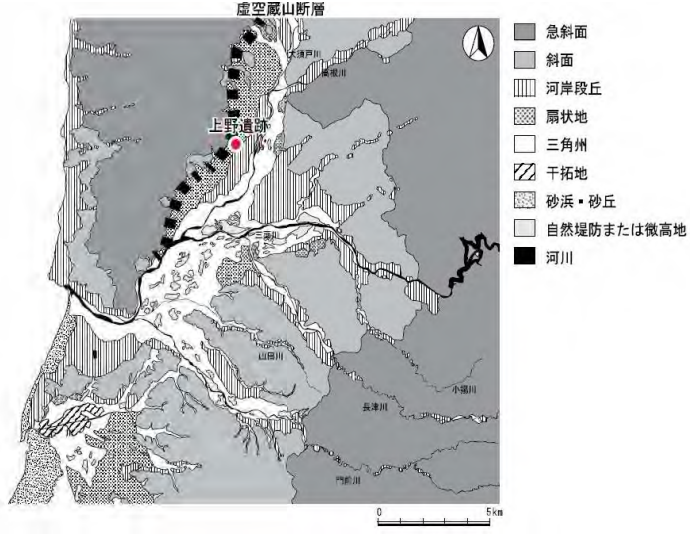
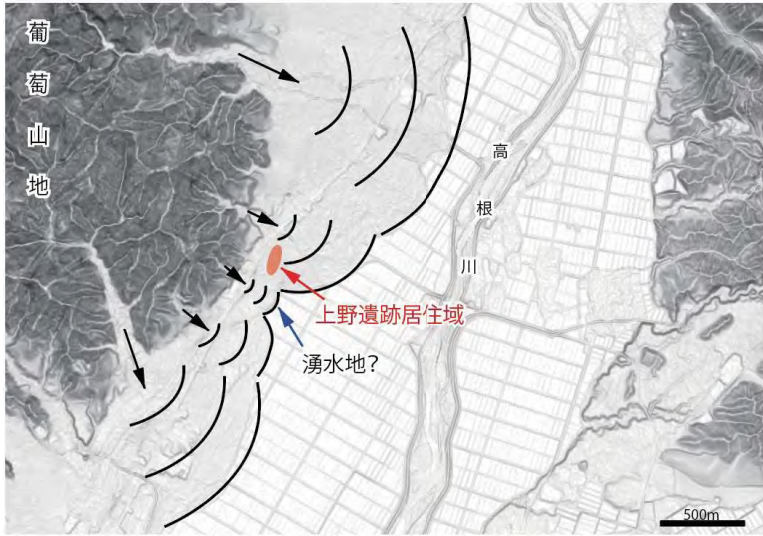


上野遺跡の2つの災害痕跡

遺跡は、西側の山地から流れた風化花崗岩による扇状地の扇頂部付近に位置し、複数の流路を検出しています。流路は土砂が徐々に堆積し、最終的に土砂流によって埋没したと考えられます。遺跡廃絶後の流路は遺跡を破壊して流れたため、土砂の堆積の中に多くの遺物が含まれています。後期の地層から1～1.5m下の縄文時代前期層の間にも土砂流によるものと考えられる土砂が堆積しています。また、地層の亀裂や断層を確認し、虚空蔵山断層の活動痕跡も見られます。



縄文時代の焼人骨

上野遺跡では、焼人骨が出土した遺構6基を確認し、新潟医療福祉大学の自然人類学研究所で焼骨の取上げ、分析作業を進めています。

焼人骨集積土坑では、SK439が焼人骨が密集して意図的な配列を思わせるように出土し、もう一つのSK9236では焼人骨の間に土が堆積し、配列がないなどの違いがあります。



また最新の分析では、上野遺跡の焼人骨には土葬の後に焼いた人骨と土葬を経ずに焼骨となった人骨（いわゆる火葬）が混在していることが分かりつつあります。

上野遺跡の出土品

今年度の出土品として、主に三十稻場式から南三十稻場式の土器が出土し、台付土器の台部も出土しています。

石器は遺跡の近隣を流れる高根川の豊富な石材を利用し、石鏃・石錐・石匙・石錘・凹石・敲石・石皿・磨石・磨製石斧・打製石斧が製作されています。土製品は土錘などがあります。

そのほかにハート形土偶の胴部や、石刀なども出土し、当時の生活や文化を知ることができます。



令和8年10月3日
国土交通省 北陸地方整備局新潟国道事務所
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

遺跡の概要

日本海沿岸東北自動車道の一部になる国道7号朝日温海道路事業に伴う上野遺跡の発掘調査は、平成29（2017）年度から継続的に実施し、令和7（2025）年度に本線の範囲を終了しました。10年目となる令和8（2026）年度の第10次調査では、市道付替えに伴う延面積3,771m²を対象に発掘調査を実施しています。

遺跡は、高根川右岸の扇状地に立地する縄文時代後期前葉の大規模集落です。これまでの調査で検出した遺構は約12,600基、建物は計277棟に達し、竪穴建物10棟、掘立柱建物27棟、平地建物238棟、敷石建物2棟があります。今年度はすでに11棟の平地建物を検出しています。過去の調査で出土した土器・土製品は27tにも及びます。

この時期としては県内最大級の集落であり、この地域の拠点的な集落です。

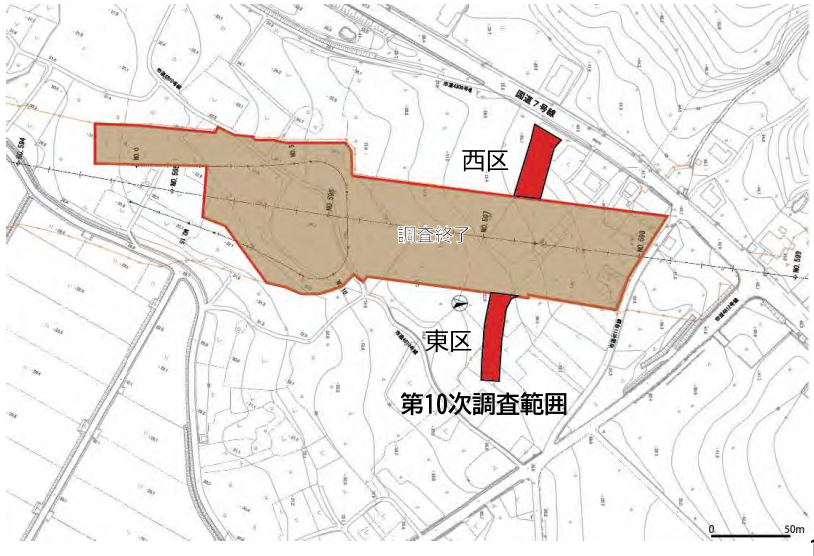
調査の成果

上野遺跡では、土砂が堆積している「土砂流域」と建物がある「居住域」があります。今までの調査によって「居住域」では中心部付近に焼人骨出土遺構や大型掘立柱建物、敷石建物、竪穴建物、掘立柱建物、平地建物など様々な形式の建物が見つっています。周縁部には階段状遺構や土坑などがあることが分かっています。

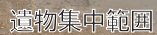
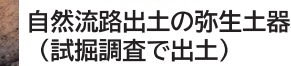
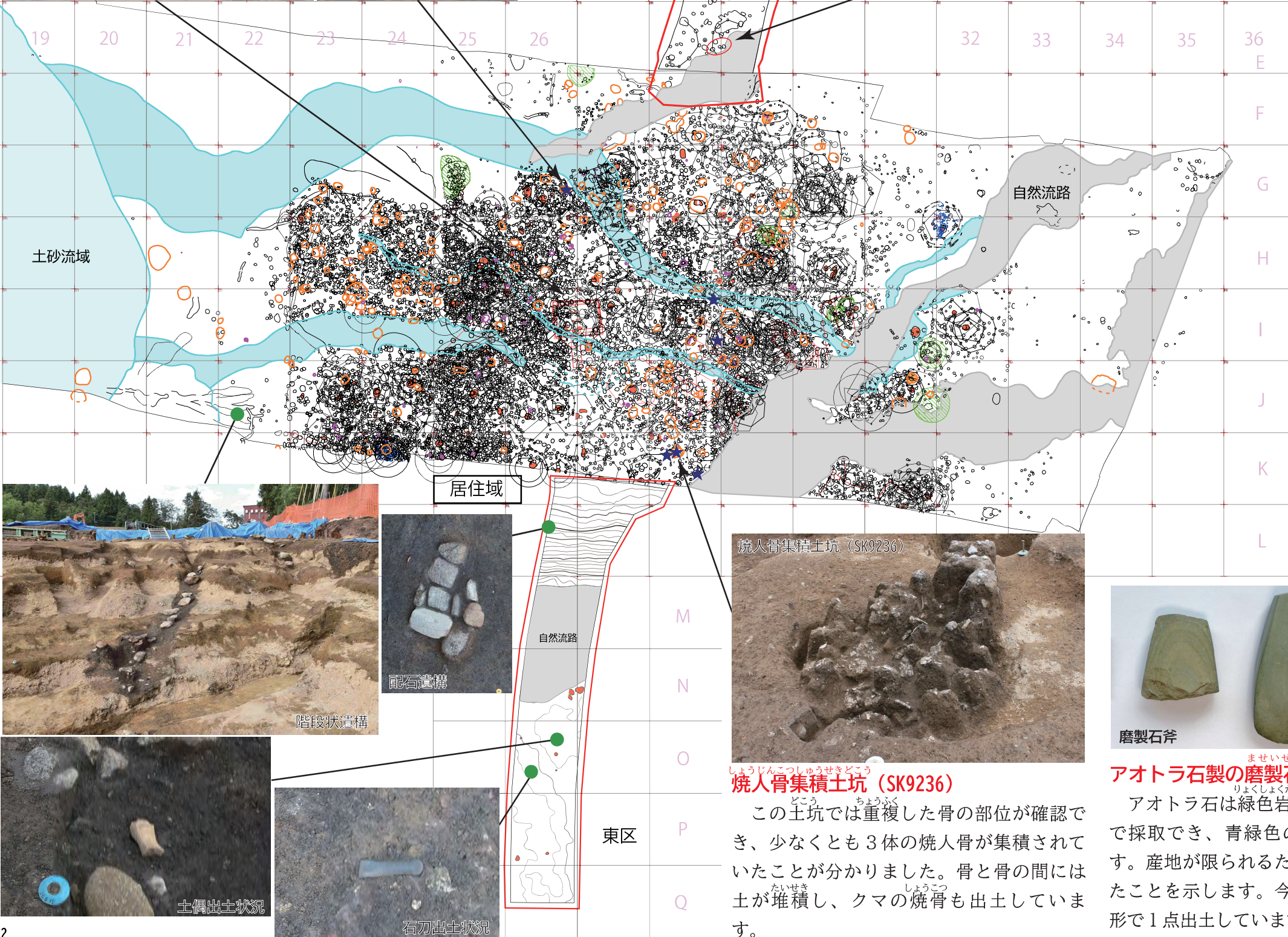
令和8年度では「居住域」の東側中心部（東区）

と西側周縁部（西区）を調査しています。東区では焼土や埋設土器、柱穴などを検出したことから建物が点在すると考えられます。西区では、平地建物や流路などを検出し、調査区の西側に向かって遺構が希薄になることから、「居住域」西側の境界を把握することができました。地形は、西から東へ傾斜し、西区と東区で比高差は約4mあります。

今年度の調査により、これまで把握していた「居住域」よりもさらに東西方向へ広がることが分かりました。



上野遺跡居住域遺構配置図



上野遺跡の集落の変遷

これまでの調査から、建物形式の重複関係を調べると、並存する時期もあったと思われるものの、**竪穴建物→掘立柱建物→平地建物**と概ね変遷することが分かっています。集落を横断する自然流路では、流路埋没後の上面に石囲炉や柱穴があったことから、自然流路を越えて集落が展開していくことが分かっています。

きょうゆういき

今年度の西区では平地建物を多く検出し、居住域が広がったと考えられます。また、同区^{やよいし}の試掘調査では弥生時代^{だいいど}の土器が出土し、本発掘調査により、縄文時代^{そう}の層を壊す新しい流路から出土したことが判明し、より西側の
上流から流れ込んだものと分かりました。

ちそう

			建物の通り変わり						流路の埋め立て	病人葬集積土坑	遺構抽出面
時 期	土 器 型 式	集落の通り変わり	建物形式	竪穴建物	掘立柱建物	平地建物	竪石建物				
縄文時代後期	前葉	三十稲場新式段階	集落のはじまり 流路の埋め立てが行われる。	竪穴建物主体							Ⅱb層下面
		南三十稲場1式段階	流路の埋め立てが完了。 広い平地がつくられる。								
		南三十稲場2式段階	集落の盛前期	平地建物主体							
			集落のおわり								
	中葉	加曾川1式段階	発見されず								

上野遺跡の集落変遷図			建物の盛り上がり					遺構 横出面
時期	土器型式	集落の盛り上がり	建物形式	竪穴建物	掘立柱建物	平地建物	竪穴建物	
縄文時代後期	前期	三十幅場式新段階	集落のはじまり 流路の裡め立てが行われる。	竪穴建物主体				流路の裡め立て 焼入段集積土坑
		南三十幅場1式段階	流路の裡め立てが完了。 広い平地がつくられる。	掘立柱建物主体				
			集落の盛盛期		平地建物主体			
		南三十幅場2式段階	集落のおわり					
	中期	加賀利B式段階	発見されず					

ちそう
遺跡の地層

上野遺跡の地層は西側の山地から供給される風化花崗岩（真砂土）が主体です。後期の地層はⅢa層・Ⅲb層・Ⅲc層・Ⅲd層に区分でき、Ⅲb層で後期前葉の遺構や遺物を多く確認しています。



アオトラ石製の磨製石斧

アオトラ石は緑色岩の一つで北海道の日高地方で採取でき、青緑色の縞模様から呼ばれています。産地が限られるため、他地域との交流があったことを示します。今年度の調査では西区から完形で1点出土しています（写真右側）。

